

# 新婦人しんぶん

## 新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもります。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせます。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放を勝ちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてます。

## 今週の紙面

- 2面 続・裏金政治家これだけ? / ニュース / 国会スポット
- 3面 読者のページ / まんが
- 4・5面 戦争させないために 今こそ外交の力を / ホット
- 6面 封筒でつくる紙バッグ / 文化情報 / 母の歴史
- 7面 新婦人の活動 / 談話



兵庫・明石市 田岡くぐり代(仮)

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

# 「子どものために」長時間労働より 教員の働き方にゆとりを



小学校の授業風景 (記事とは関係ありません)

深刻な教員不足に「もう学校がもたない」と現場から悲鳴が上がっており、教員の働きかたの見直しは待たないです。政府・文科省に対して抜本的な改善策を求める声が、教育研究者や現職・退職教員、保護者から寄せられています。

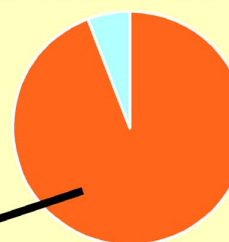
## 「病欠ドミノ」の起きる教育現場

3月8日、新婦人も参加する「学校に希望を！長時間労働に歯止めを！ネットワーク」が記者会見をおこない、「学校がもたない！緊急アンケート」(調査…2024年1月28日～3月4日)の結果を発表しました。アンケートは現職・退職教員や保護者、2951人が回答しました。回答では、まわりで教員不足が起きているとした教員が94.4%。その要因として、「長時間労働、『休めない』など職場環境が悪いから」が最も多く、「残業代ゼロなど処遇が悪いから」「子どもや保護者への対応が困難になってきたから」が過半数を超えました。

長時間労働に歯止めをかける施策として、「教員をふやす」(88.4%)、「少人数学級にして余裕を持たせる」(72.7%)を求める声が多く寄せられ、会見に出席した現職の小学校教員は、長時間労働で心身の調子を崩す教員が相次ぎ、「病欠ドミノ」が起きていると実態を告発しました。会見には新婦人の会員

## 「教員不足」がおきた学校は9割超

設問：あなたのまわりで、この1～2年の間に「教員不足」がおきた・おきている学校がありますか？



教員の回答

ある 94.4%

## 「教員を増やす」の声が最多！

設問：教員の長時間労働に歯止めをかける施策として何を求めますか (複数選択可)

回答	回答総数の内の割合 (%)
教員を増やす	88.4
少人数学級にして余裕を持たせる	72.7
全国学力テスト、教員評価など競争をある施策の中止	52.9
残業代を支給できるようにする	52.2
教育委員会中心の「研究授業」等の縮小・廃止	46.5
教員以外の職員を増やす	44.2
学校の授業数を減らす	42.7
部活動の縮小・移行	40.9
教員委員会による官製研修の縮小・廃止	40.3
観点別評価の廃止	31.8
学校行事の縮小	21.1

「学校が持たない！緊急アンケート集約結果と分析」(2024年)より作成

## 教員と保護者の連携が希望

でもある小学生の保護者も出席。子どもの通う学校で、4月からの時間割の変更や学習内容の見直しなど、先生の働きかた改革案が提案されたと言います。担任に聞くと、「トイレに行けない、休憩時間がない、夕方になって水を飲んでいなかった」

「子どもも大人も学校から逃げていって」と言われますが、コロナでの閉鎖から明けた学校では子どもたちの笑顔がはじけました。災害で避難所だった学校が再開されたときも同じです。学校は子どもたちが触れ合い育ちあう場だと再確認されました。希望を取り戻すこと「できるはずですよ」と話しま

「授業準備や教室整理が勤務として認められない、残業代を支給しない、という法律(給特法)や、長時間労働がその余裕を奪ってまました」と宮下さん。

緊急アンケートには「相談した先生に余裕がなく対応に疑問をもつことも。学校と対立するのではなく連携できれば」という保護者の声がありました。宮下さんは「ここにも希望があると思います。教員の教育条件は子どもの教育条件に直結しているのですから」と。先述の保護者は、聞き取りをした翌朝にも校長から「事務作業量で伝えきれなかったことがあった」と再度電話があったと言います。「先生、働きかた、どうですか?」。

全日本教職員組合(全教)委員長の下直樹さんは、「不登校の増加、教員のなり手不足など

「子どもも大人も学校から逃げていって」と言われますが、コロナでの閉鎖から明けた学校では子どもたちの笑顔がはじけました。災害で避難所だった学校が再開されたときも同じです。学校は子どもたちが触れ合い育ちあう場だと再確認されました。希望を取り戻すこと「できるはずですよ」と話しま

「授業準備や教室整理が勤務として認められない、残業代を支給しない、という法律(給特法)や、長時間労働がその余裕を奪ってまました」と宮下さん。

緊急アンケートには「相談した先生に余裕がなく対応に疑問をもつことも。学校と対立するのではなく連携できれば」という保護者の声がありました。宮下さんは「ここにも希望があると思います。教員の教育条件は子どもの教育条件に直結しているのですから」と。先述の保護者は、聞き取りをした翌朝にも校長から「事務作業量で伝えきれなかったことがあった」と再度電話があったと言います。「先生、働きかた、どうですか?」。

「学校に希望を！ 長時間労働に歯止めを！ ネットワーク」の記者会見 (3月8日)

「学校に希望を！ 長時間労働に歯止めを！ ネットワーク」の記者会見 (3月8日)

